

英語授業における教育効果向上のためのプログラムの現状と開発の方向性 —自由が丘産能短期大学での英語教育モデルの活用—

Present Situations and Future Perspectives for Developing English Educational Programs — Concerning Educational Models at JIYUGAOKA SANNO College —

池 田 るり子

Ruriko Ikeda

抄 録 本学において、英語が苦手な単位を修得できない学生が存在するため、英語科目に関する特別指導の必要性が高まってきた。本学カリキュラム委員会での検討の結果、英語再学習プログラムとしての特別指導科目が追加された。英語の苦手な学生の背景には、大学入学以前での教育現場での問題点もあるが、入学後の大学での英語再学習プログラムの開発の必要性は高い。本学履修者の英語力に関する傾向や意識等を調査・分析し、新しい英語教育（コミュニケーション・アプローチによる学習法）への取り組みは大きな意味がある。本学において、英語再学習プログラム「基礎からの英語I・II（集中授業）」の追加実施にともない、英語の苦手な学生の英語授業に対するイメージを変える新しい英語モデルの導入と、本学で修得できる基本的能力と連携させた英語教育への取り組みが必要である。どのようなプログラムが提案できるか現状を把握し、今後の方向性、あり方を整理することは重要である。

キーワード 英語再学習プログラム コミュニカティブ・アプローチ ペアワークによる音読 本学で修得できる基本能力との連携

English Re-learning Programs, Communicative Approach, Pair Work Reading, Connection with Basic Ability at JIYUGAOKA SANNO College

1. 研究の背景と目的
2. 本学学生の英語に関する意識
 2. 1 英語意識調査結果
 2. 2 英語とのかかわり方
3. 本学学生の英語力の問題点
 3. 1 基礎英語力の傾向
 3. 2 英語学習力の傾向
4. 本学での英語教育への取り組み
 4. 1 英語再学習プログラム授業計画
 4. 2 コミュニカティブ・アプローチによる学習法の導入
 4. 3 ペアワークによる音読
 4. 4 映像教材の活用
5. 本学での今後の英語教育の方向性
 5. 1 テキスト
 5. 2 本学で修得できる能力との連携
6. 今後の課題

1. 研究の背景と目的

本学において、英語が苦手な単位を修得できない学生が存在するため、英語科目に関する特別指導の必要性が高まってきた。本学カリキュラム委員会での検討の結果、英語再学習プログラムとしての特別指導科目が追加された。

英語の苦手な学生の背景には、大学入学以前での教育現場での問題点もあるが、現実問題として、英語が苦手な単位を修得できない学生が存在する場合、大学での英語再学習プログラムの開発の必要性は高い。

本学履修者の英語力に関する傾向や意識等を調査・分析し、英語力に問題のある学生に対する新しい英語教育への取り組みは大きな意味があり、どのようなプログラムが提案できるか現状を把握し、今後の方向性、あり方を整理する意義は大きい。

ここでは、2009年度に実施した「英語意識調査」結果から、既存の英語再学習プログラム「基礎からの英会話」履修者の英語に関する意識及び英語とのかかわり方について調査、分析を行う。

また、2010年度に実施した英語再履修対象者選定試験（Placement Test）結果から、2010年度新たに追加された新規英語再学習プログラム「基礎からの英語（集中授業）」に向けて、履修予定学生の英語力の傾向を分析し、新しい英語プログラム開発に向けて、今後の本学における英語教育の方向性、あり方、課題を明確にする。なお、上記については、調査、インタビュー、文献、資料解析等による事例研究を行う。

2. 本学学生の英語に関する意識

2. 1 英語意識調査結果

2009年本学において学生の英語に対する意識調査を記述式アンケートで行った。（資料1）

総対象者調査結果と既存の英語再学習プログラム「基礎からの英会話」履修者の調査結果との比較を行った。

調査の対象者は、「基礎からの英語（1年生対象、通常英語科目）」「基礎からの英会話（全学年対象、再学習プログラム）」「海外英語特講（全学年対象、カナダオカナガン大学海外研修プログラム）」「秘書と国際マナー（2年生対象、秘書英語）」の履修者100名を対象に「英語に関する自己評価」というタイトルで授業初回に実施した。

結果として、「英語は好きですか？」という質問に対して、総対象者の60%、再学習プログラム履修者11%の学生が「英語が好きだ」と答えている。「英語を使う機会があるか」については、総対象者の65%、再学習プログラム履修者77%の学生が「英語を話す機会を持たない」と考えている。「英語を学習する必要があるか」については、総対象者97%、再学習プログラム履修者77%の学生が「必要だ」と感じている。（表1）

また、「英語を学ぶにあたって、伸ばしたい能力は何か」という質問に対して、複数回答ではあるが、回答の多い順に並べると、「会話力」総対象者85%、再学習プログラム履修者77%、「文法力」総対象者54%、再学習プログラム履修者33%、「聞き取り力」総対象者54%、再学習プログラム履修者55%、「単語力」総対象者50%、再学習プログラム履修者55%、「読解力」総対象者30%、再学習プログラム履修者33%という結果であった。

資料 1



英語に関する自己評価

アンケート 受講科目名: _____

氏名 _____ 学生番号 _____

あなたと英語との関わりについてお答えください

Q 1. 英語を学びはじめてから何年ですか? _____ 年

コメント 例: 8歳から子供英語教室からはじめた。中高の学校の授業で。

[]

Q 2. 現在英語を使う機会がありますか? はい いいえ

はいの方: たとえばどのようなときですか? 例: バイト先の外国人のお客様

[]

いいえの方: どうして使わないのですか?

[]

Q 3. 英語は好きですか? はい いいえ

はいの方: どういうところが好きですか?

[]

いいえの方: どうして嫌いなのですか?

[]

資料1

Q4. 英語を学習する必要性はありますか？ はい いいえ

理由は何ですか？

[]

Q5. 「私と英語」というタイトルで、自分と英語とのかかわりについて、現在・過去・未来について考え、述べてください。(500字以内)

[]

Q6. あなたの英語を学ぶにあたって、伸ばしたい能力は何ですか。(○をつける。複数可)

1. 文法力 2. 単語力 3. 会話力 4. 聞き取り力 5. 読解力

英語を伸ばすのに必要な基本能力は以下の8つです。あなたの得意なものと苦手なものはどれですか。

①誰とでもコミュニケーションが取れる。	得意	苦手
②大きな声で話せる。	得意	苦手
③日本語でも短い文章でわかりやすく結論から話せる。	得意	苦手
④いろいろな物に興味を持てる。(何だろう？など)	得意	苦手
⑤過去のやり方にとらわれず、柔軟に問題解決できる。	得意	苦手
⑥アイデアが流暢にどんどん出てくる。	得意	苦手
⑦自分にあった勉強方法を発見している。	得意	苦手
⑧どちらかというと明るい性格である。	得意	苦手

表1 英語に関する自己評価アンケート集計結果 1 (本学)

アンケート内容 対象クラス	英語は		英語を使う機会が		学習の必要性	
	好き	嫌い	ある	ない	ある	ない
基礎からの英会話(再学習プログラム教科)	11%	89%	22%	77%	77%	22%
総調査対象者(100名)合計	60%	40%	35%	64%	97%	3%

2009年実施

表2 英語に関する自己評価アンケート集計結果 2 (本学)

アンケート内容 対象クラス	英語を学ぶにあたって、伸ばしたい能力は何ですか？(複数回答)				
	文法力	単語力	会話力	聞き取り力	読解力
基礎からの英会話(再学習プログラム教科)	33%	11%	77%	55%	33%
総調査対象者(100名)合計	54%	50%	85%	54%	30%
再学習プログラム教科順位 (多い順)	③	④	①	②	③

2009年実施

総対象者に比べ、「文法力」「会話力」について、再学習プログラム履修者の優先順位が低い。(表2)

最後に「英語能力とは別に英語を伸ばすために必要な基本的能力」について、8つの項目を挙げ、英語学習に影響する能力について調べた。総対象者と再学習プログラム履修者の苦手得意の傾向はほぼ同じであった。「得意」の回答の多い順に並べると、総対象者の結果では、①「いろいろなものに興味を持てる」②「どちらかというとも明るい性格である」③「大きな声で話せる」④「誰とでもコミュニケーションが取れる」⑤「アイデアが流暢にどんどん出てくる」⑥「日本語でも短い文章でわかりやすく結論から話せる」⑦「過去

のやり方にとらわれず、柔軟に問題解決できる。」⑧「自分にあった勉強方法を発見している」が挙げられる。

再学習プログラム対象者では、①「いろいろなものに興味を持てる」②「大きな声で話せる」、「誰とでもコミュニケーションが取れる」④「アイデアが流暢にどんどん出てくる」、「どちらかというとも明るい性格である」⑥「日本語でも短い文章でわかりやすく結論から話せる」、「過去のやり方にとらわれず、柔軟に問題解決できる。」⑧「自分にあった勉強方法を発見している」が挙げられる。(表3)

表3 英語に関する自己評価アンケート集計結果 3 (本学)

アンケート内容	英語を伸ばす基本的な基本能力得意なものど苦手なものはどれですか。															
	①誰とでもコミュニケーションが取れる		②大きな声で話せる		③日本語でも短い文章でわかりやすく結論から話せる。		④いろいろなものに興味を持てる		⑤過去のやり方にとらわれず、柔軟に問題解決できる。		⑥アイデアが流暢にどんどん出てくる		⑦自分にあった勉強方法を発見している		⑧どちらかというところと明るい性格である。	
対象クラス	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手	得意	苦手
基礎からの英会話(再学習プログラム教科)	78%	22%	78%	22%	44%	56%	89%	11%	44%	56%	56%	44%	22%	78%	56%	44%
総調査対象者(100名)合計	55%	45%	66%	34%	40%	60%	86%	14%	35%	65%	41%	59%	36%	64%	71%	29%
再学習プログラム得意集計順位(多い順)	②		②		⑥		①		⑥		④		⑧		④	
再学習プログラム苦手集計順位(多い順)		⑥		⑥		②		⑧		②		④		①		④

2009年実施

2. 2 英語とのかかわり方

英語再学習プログラム履修者を対象に「過去、現在、未来についての自分と英語とのかかわり」について自由記述式(500字以内)でアンケートを行なった。

再学習プログラム履修者の英語学習年数は、平均7年6カ月で、小学校及び幼稚園で英会話教室経験者(2年以上)は、20%存在した。

英語が苦手になったのは、「中学から英語が苦手になった70%」、「高校から英語が苦手になった10%」、「英語が好きで、興味がある(語学ホームステイ経験、現在英会話を習っているなど。)20%」であった。

英語が苦手になった理由を分析すると、中学で英語が苦手になった履修者は、「文法(語順、3人称、動詞の変化など)」「単語の暗記」「単語の読み方とスペルの違い」など覚えることができず、授業についていけなくなったという理由が80%であった。

その他、「英語の授業中、寝ていることが多いかったため気がつく授業についていけなくなった」「英会話教室での授業と中学校での授業との間にギャップを感じ、英語嫌いになった。」、「「テーマや会話内容が身近なものからかけ離れていた。」、「「登場人物の名前に違和感があって好きになれない。」、「「英語を学校以外の場所で使ったことがなかった。」などが挙げられる。

高校で英語が苦手になった履修者は、10%だが、「会話の授業は楽しかったが、受験英語や高度な文法の授業が始まってつまらなくなった。」、「英語は将来必要だとわかっていても中学の時のように楽しいと思えなかった。」、「高校生になって、中学生の時のように実際に使えそうな内容ではないと感じてしまった。」「中学までは英語に興味があり、面白いと思っていた」、「高校くらいから、中学の時のように楽しいと思えなくなった」が挙げられる。

3. 本学学生の英語力の問題点

3. 1 基礎英語力の傾向

本学では、2010年度より、「基本的な英語の知識の理解」を最低基準と考え、通常英語科目「基礎からの英語Ⅰ」「基礎からの英語Ⅱ」の全履修者を対象とし、英語再履修対象者選定試験（Placement Test）を実施した。

基準については、以下の①基本的な単文の文型（SVとSVO）の理解②疑問形（Yes/No Questionと5W1H Question）の理解③4つの時制（Simple Present, Simple Past, Simple Future, Present Progressive）の理解をLevel1とし、基準値を定めた。

作問に関する形式基準は、「(1) 採点が容易にできる選択問題で作問する。(2) 試験時間は20分程度（15分～20分）とする。(3) Level1の基準に合わせ、TOEICの文法編の問題形式を参考にする。(4) 作文数は、計50問を目安とする。」である。

英語再学習プログラム履修者の試験結果傾向として、Level1基準において、①から③に向けて不正解率が高くなる傾向が強く、「①基本的な短文の文型の理解」50%以下、「②疑問形の理解」20%以下、「③4つの時制の理解」10%以下の解答となった。

3. 2 英語学習力の傾向

本学の英語再学習プログラム履修者は、英語意識調査自由記述の結果の英語嫌い89%から英語の苦手意識が強い傾向がある。学習態度については、「①授業に出席している場合でも授業内容をよく理解できない②授業についていけない状態が続き、ますます英語に興味を持てなくなる。③課題提出を忘れるなど、英語単位取得について強い危機感がない。④

授業に対する参加意欲が薄く、時間の経過と共に、遅刻や欠席が多くなる。」傾向がある。

また、英語再履修対象者選定試験（Placement Test）結果から、英語再学習プログラム履修者は、英語の基礎知識力が低いことがわかる。

既存の再学習プログラム「基礎からの英会話」履修者の「授業評価アンケート」の自由記述結果から、「英語は難しいと決めつけていたが、少人数制の個別英語レベルで対応してもらえてわかりやすかった」、「英語嫌いで英語が苦手だったが、最後のスピーチコンテストが自信になった」など、クラスに対する満足度は高く、この授業により苦手を克服できるきっかけとなる傾向が強かった。

4. 本学での英語教育への取り組み

4. 1 英語再学習プログラム授業計画

2010年度新たに追加される新規英語再学習プログラム「基礎からの英語（集中授業）」実施に向けて、到達学習目標を以下の3つ「①英語の基本文型、(SV型 & SVO型)、動詞の基本（Be 動詞 & 一般動詞）、疑問文（Yes/No & 5W1H 疑問文）についての知識を高め、英語を深く理解するための基本文法を理解する。②英語で楽しく会話するために必要な日常で使う英単語（名詞&動詞&形容詞）60語を覚え、英語単語力を高める。③DVD教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験（アフレコ）により、英語の正しい発音、自然な抑揚に慣れ、各自のスピーキング力、リスニング力、会話力向上をめざす。」と設定した。

実施日時については、基礎からの英語Ⅰを9月6日（月）～8日（水）、基礎からの英語Ⅱ

を2月7日（月）～9日（水）9：15～18：15の3日間の集中授業形式で実施する。

課題・試験については、第1日目と第2日目に復習テスト（30分）と課題、第3日目最終テスト（60分）を実施する。

使用テキストは通常の「基礎からの英語」で購入した「World Link Video Course Intro Workbook」を再活用し、それに加え、NHKテレビ アニメ版ストーリーブック「リトル・チャロ 1」, そのほか私製ワークシートを適宜配布する。（表4, 5）

4. 2 コミュニカティブ・アプローチによる学習法の導入

「コミュニケーションアプローチによる最新の教授法」¹⁾は、以下の3つの原則に基づく。

①コミュニケーションのためのツールとしての自然な英語だけを覚える。②全部を聞き取る力より、ことばの意味を超えて相手の意図を推測する力を養う。③「覚える」より、楽しく「使う」を優先する。東後氏¹⁾によれば、この3つの原則を守れば、「使える」英語に到達するとしている。

また、昨年本学紀要43号において「英語自己学習プログラム開発研究」²⁾に記載したが、アイビーリーグ（IVY League）大学の1つであるコロンビア大学附属英語機関（Columbia University, American Language Programs, 以下ALPと表記）³⁾教員の指導教官への「日本人の英語力の特徴」についてインタビューを行った際、「初期レベルでの日本人への英語教育では、リスニング力とスピーキング力を高めることは有効である」というアドバイスを受けた。

また、新しい学び方への模索・研究とし

て、「英語自己学習プログラム開発研究」で記述した「コミュニケーションアプローチによる最新学習方法」, 「メリス英語」, 「ピンズラーアメリカ英語」, 今年度は、「耳慣れビスク英会話」のユーキャン通信講座を受講し、教授法研究を行った。

「耳慣れビスク英会話」は、「メリス英語」, 「ピンズラーアメリカ英語」と同様にアメリカ英語をベースとして、付属のCD教材を毎日20分程度の聞き取り、継続することで、英語の語順に慣れ、自然に「英語構造の脳への記憶定着」につながる学習トレーニングプログラムである。基本的にテキスト不要である点は同じだが、他の2つに比べ比較的身近な簡単な内容の会話文が流れ、以前受講した「メリス英語」, 「ピンズラーアメリカ英語」に比べて、日本語のナレーターの指示と、語順を日本語で訳すなど英語だけでなく、日本語との組み合わせの頻度が多く、初心者向けのゲーム感覚で楽しめる内容だった。基本文型を修得させる本学の基準（Level1）に活かせる教授法である。

本学で2010年度に新たに追加される新規英語再学習プログラム「基礎からの英語（集中授業）」の開発において、上記の考え方を基本にし、「①英語を理解するための基礎的な文法をペアワークで英語を使ってゲーム感覚で理解する。②楽しく会話するための英単語を絵や写真を使って自然に覚える。③DVD教材「リトル・チャロ」を使い、コミュニケーションとしての自然な抑揚や発音、全体を聞き取るリスニング力の基本を学ぶ。」を組み込んだコミュニケーションに必要な授業カリキュラム開発を進めた。（表6）

表4 基礎からの英語授業計画

日時	*	テーマ	内容	備考
9/6 (月) 午前		英語を理解するための基本文法	基本文型 SV、Be 動詞、It の主語、Yes/No 疑問文、所有格 (my/your/her /his/its)、Who/Where	事前課題あり ミッションシート参照 提出日 第2日目
		楽しく会話するための英単語	職業、国籍、人種	
		午前中の復習	文法復習シート1 (30 分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	文法復習シート3-A (30 分)	
9/8 (火) 午前		英語を理解するための基本文法	基本文型 SVO、一般動詞、Have 動詞、He/She/It の主語、There is、Want、and、名詞の複数、現在進行形	事前課題あり ミッションシート参照 提出日 第3日目
		楽しく会話するための英単語	電化製品、趣味	
		午前中の復習	文法復習シート2 (30 分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	文法復習シート3-B (30 分)	
9/8 (火) 午前			現在形、所有格 ('s)、5 つの時制まとめ (現在形、過去形、未来形、現在進行形、現在完了形) & 疑問文 (Yes/No & 5W1H)	事前課題なし
		楽しく会話するための英単語	食事、家族	
		午前中の復習	英単語復習シート1 (30 分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験 (アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	最終試験 (60 分)	

表5 基礎からの英語授業計画

日時	*	テーマ	内容	備考
2/7 (月) 午前		英語を理解するための基本文法	基本文型 SV、Be 動詞、It の主語、Yes/No 疑問文、前置詞 on/at、How long	事前課題あり ミッションシート参照 提出日 第2日目
		楽しく会話するための英単語	1日の行動、時間	
		午前中の復習	文法復習シート1 (30分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	文法復習シート3-A (30分)	
2/8 (火) 午前		英語を理解するための基本文法	基本文型 SVO、一般動詞、Have 動詞、He/She/It の主語、There is、Want、and、頻度の副詞 (always、usually、often、sometimes、hardly ever/seldom、never)	事前課題あり ミッションシート参照 提出日 第3日目
		楽しく会話するための英単語	動作、家具	
		午前中の復習	文法復習シート2 (30分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	文法復習シート3-B (30分)	
2/9 (水) 午前			名詞(単数、複数) Can の使い方、5つの時制まとめ(現在形、過去形、未来形、現在進行形、現在完了形) & 疑問文 (Yes/No & 5W1H)	事前課題なし
		楽しく会話するための英単語	雑貨、自己表現	
		午前中の復習	英単語復習シート1 (30分)	
午後		正しい発音、自然な抑揚、リスニングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) 会話部分	
		スピーキングの基本	DVD 教材「リトル・チャロ」を通して、シミュレーション体験(アフレコ) ナレーション部分	
		本日の復習	最終試験 (60分)	

表6 英語再学習プログラム「基礎からの英語」課題シート（ミッションシート）

ミッションシート (課題)	・ 英語の基本文型 SV文型、SVO文型を理解しよう。人を深く理解するためのコミュニケーションの基礎知識として以下のテーマごとに調べまわめましよう。 ・ コミュニケーションをとるための基礎知識について以下のテーマごとに英語で文章を作りましよう。
------------------	---

第1日目 英語テーマ：SV型、SVO型について知ろう。

① I am で始まる自分についての20項目の短文を作りましよう。

例 I am beautiful. (私はきれい) I am tall. (私は背が高い)

② I like で始まる自分についての10項目の短文を作りましよう。

例 I like K-pop music. (私 K-pop が好き)

I like Chinese Food. (私は中華料理が好き)

③ ①と②の文章を You を S(主語)にして疑問文を10項目作りなさい。

例 Do you like K-pop music? Are you 20's?

④ It を主語にして、部屋の中のもので英文を10項目作りなさい。

例 It is my PC.(私のコンピュータです)

第2日目 英語テーマ：SV型、SVO型 & He/She のS(主語) & Have /Want/ There is & and の使い方について知ろう。

インターネット、図書館等を利用して様々な表現を調べてみましよう。

① 一般動詞を使ってSV型、SVO型の文章を10項目作りなさい。

② ①で作った文章の主語をHe/SheをS(主語)の文章にしなさい。

③ Have 動詞を使ってSV型、SVO型の文章を10項目作りなさい。

④ Want を使ってSV型、SVO型の文章を10項目作りなさい。

⑤ There is (are) を使って文章を10項目作りなさい。

第3日目 最終試験実施日のため、課題はありません。

4. 3 ペアワークによる音読

英語をコミュニケーションツールとして活用するため、音読(Reading)について、ペアワークによる英語教授法を活用する。

英語教授法は、DVD英語教材「Japan Laim Original DVD Series EDUCATION 英語教育 Hot Issue!」(以下英語教材Hot Issue!と表記)で紹介されているペアワークの進め方

を参考に以下の5つの方法①Over Lapping, ②Buzz Reading, ③Speed Reading, ④Chase Reading, ⑤Interface Rading, ⑥Voice Contorol Readingを活用する。(表7)

音読をペアワークにすることによって、ペアを組んだ相手に向けて英語を伝えるためには、口をしっかりと動かし、大きな声ではっきりと発音することが大切であることに気づ

表7 英語教授法 音読リレー（ペアワーク）

Over Lapping	・CD教材や教員の音に合わせて読ませる ・2回 大きな声を出さない
Buzz Reading	・隣の人の音にあわせて読ませる ・2回 大きな声を出さない
Speed Reading	・個人でできるだけ早く読む ・1分間だけ
Chase Reading	・隣の人と競争するようにできるだけ早く読む ・追い越すまで 大きな声は出さない
Interface Reading	・隣の人の声を邪魔するほど大きな声で読む ・2分間程度 大きな声を出す
Voice Control Reading	・隣の人が手をたたく時に、大小の声を切り替えて読む ・2回 大きな声と小さな声を使い分ける

き、英語を声に出して話すことへの照れや違和感を無くし、自信をつけさせる効果があった。

4. 4 映像教材の活用

集中授業の特質を鑑みて、午後の授業に物語性の高いNHKの英語教育番組アニメ「リトル・チャロ」のDVD教材及びインターネットを活用した授業を配置した。アニメーション映像を通して、声優シミュレーション体験（アフレコ）により、英語の正しい発音、自然な抑揚に慣れ、各自のスピーキング力、リスニング力、会話力の向上を目指す。

また、この番組の教育的な特徴である、さまざまなクロスメディア（テレビ番組、ラジ

オ番組、番組ホームページ）を活用し、インターネットとの連携による新しい試みを実施する。

5. 本学での今後の英語教育の方向性

5. 1 テキスト

既存の英語再学習プログラム「基礎からの英会話」では、学生からのテキストへの要望として、「卒業後も使えるもの」、「比較的安いもの」、「持ち歩きに便利な小さめのサイズ」、「絵の多いカラフルなもの」、「辞書が必要なもの」などが挙げられた。

その結果、2010年度に新しく追加される新規英語再学習プログラム「基礎からの英語（集中）」での使用予定テキストは、通常英語

科目「基礎からの英語Ⅰ（前学期）」、「基礎からの英語Ⅱ（後学期）」の授業で使用している「World Link Video Course Intro Workbook」に加え、NHKテレビ アニメ版ストーリーブック「リトル・チャロ Ⅰ」、そのほか私製ワークシートの適宜配布を予定している。

今後の本学での使用する英語テキスト及び教材の方向性を模索するため、コロンビア大学付属英語機関（ALP）、教員指導教官を再度訪問し、実際の教室現場、教材資料室等の視察をした。

現在、従来の紙ベースでの英語教材開発も行っているが、インターネットを利用した授業を鑑みて、PCによる英語教材プログラムやインターネットによるEラーニングプログラムの開発が行われている。20年前から自己学習プログラム（教室授業以外の学習の場）の主流となっていたリスニング、ディクテーションによる学習のために使われていたLL教室を閉鎖し、現在は、パソコン（PC）によるインターネットを利用した自己学習プログラムを主流に活用していた。

コロンビア大学付属英語機関（ALP）、教員指導教官より、「コミュニケーション・アプローチによる最新の教授法を活かすためには、インターネットによる最新の教材やDVDなどの映像教材の活用が必要となる。また、従来の教室でのペアワークなど各学生の能力に合わせた教員作成による紙ベースでの教材との組み合わせが必要となる。」とのアドバイスを受けた。

5. 2 本学で修得できる能力との連携

本学における学生の英語に対する意識調査

結果では、既存の英語再学習プログラム「基礎からの英会話」履修者において「英語が好き」な学生は、総対象者の60%に比べ11%とかなり少ない。「英語を話す機会を持たない」学生は、総対象者に比べ、若干話す機会が少ないことがわかる。その反面、総対象者より若干下回るが、「英語は必要だ」と77%の学生が感じている。このことから、英語好きは少ないが、英語の必要性を感じている学生が多く、英語を話す機会を持たせる必要性があることがわかった。（表1）

「学ぶにあたって伸ばしたい能力」については、会話力が一番多く、次に聴き取り力、読解力、文法力、単語力と続き、総調査者の「単語力」50%に対し、11%、「文法力」54%に対して33%と値の差からも、単語や文法に対する苦手意識が強いことがわかった。また、会話を中心とした英語の授業を望んでいることがわかった。（表2）

「英語を伸ばす基本能力の中で得意なもの」については、「いろいろなものに興味を持てる89%」「大きな声で話せる78%」、「誰とでもコミュニケーションが取れる78%」、「アイデアが流暢にどんどん出てくる56%」、「どちらかというと明るい性格である56%」と総調査対象者の値よりすべてにおいて高かった。（表3）

英語以外の本学で修得できる能力である「ペアによる協働力」、「グループワーク力」、「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」、「考えを深める力」、「PC活用力」が挙げられるが、アンケートの結果から、再学習プログラム履修者の基本能力と連動する部分が多い。これらは、履修生から英語苦手意識を取り除ければ、プレゼンテーション

の授業で修得できた能力を活かした英語スピーチ、本学の特徴ともいえるグループワーク力、ペアワーク力、コミュニケーション力を活かしたクラスメンバー間での英会話、PC活用力を活かしたインターネットによるEラーニング導入の可能性が考えられる。

英語教育を他の科目と独立させるのではなく、英語以外の他科目で修得できる基本能力を本学の英語再学習プログラムに連動できる本学独自の英語授業開発を検討すべきである。

7. 今後の課題

コミュニケーション・アプローチによる教授法を導入するには、本学の新規英語再学習プログラム「基礎からの英語」のような3日間の集中授業で今後どのように活用できるか課題となる。

時代のニーズに合わせ開発されたさまざまな新しい教育技法を教える側の教員が体験することで、学ぶ側の立場になってどのように教育現場で活用できるか、今後の情報収集を継続し、学生の基準と鑑みて活かしたい。

本学紀要43号「英語自己学習プログラム開発研究」でも述べたが、新しい学び方で学ぶことは、学生にとって、導入から慣れるまでの猶予期間が必要である。コミュニケーション・アプローチによる教授法が有効だとしても既存の方法（中学、高校での学び方）と交互に取り入れながら、徐々に新しい学び方に移行していく必要がある。

英語再学習プログラムへの今後の試みとしての検討課題は以下の3つである。

①本学の英語再学習プログラム履修者選定基準について、大学入学以前での英語環境、心

理面も含め、抱えている現状を鑑みて設定する必要がある。②コミュニケーション・アプローチによる学習法は効果的であるが、英語再学習プログラム履修者の英語力を把握し、個別に対応できる効果的な英語教育方法の検討が重要である。③英語嫌い、苦手意識の強い履修者について英語授業に対するイメージを変える新しい英語モデルの導入と、本学で修得できる能力と連携させた英語教育への取り組みが必要である。

今後は、本学の英語に対する意識調査・分析を継続し、2010年度新規英語再学習プログラム「基礎からの英語（集中授業）」履修者の傾向を鑑み、今後の再学習プログラムへの取り組みに向けて、新しい英語教授法の体験学習及び教材研究を続けていきたい。

注

1. コミュニカティブ・アプローチによる教授法は、NHKラジオ英語講師として活躍された東後勝明氏が、「日本人が英語を使えるようにならないのは、どこかに決定的な要因が潜んでいるに違いない」と確信し、これまでの文法、文型中心の勉強に限界があり、フレーズを覚え、練習をし、それから使うようになるという勉強の順序では「使える」ところには到達しない、ことばを知っていることとコミュニケーションとして「使える」ことは別の問題であると考え、1998年に日本の英語教育の「最後の教授理論」として「コミュニケーション・アプローチによる最新学習法」を日本に紹介した。
2. 2008年度研究助成自由研究「新しい英語自己学習プログラム開発研究」の研究発表

後、新規科目「基礎からの英会話」への自己学習プログラム開発に向けて、研究調査報告として紀要へ掲載された。なお、「自己学習プログラム」の「自己学習」とは、「自主的な学習意欲を持たせる」という意味である。

3. Columbia University, American Language Program の総称。外国人を対象とした大学付属英語教育機関。大学独自のテストにより、クラス分けを行い、レベル3～8までの履修者のさまざまな目的に応じて、高度な英語教育を提供している。レベル8クラスはTOEFL600点程度。

参考文献

- Azar, Betty S., "Understanding & Using English Grammar", Prince-hall, Inc., 1999, 387p.
- Fingado Gail & Jerome, Mary R. (ALP, Columbia University), "English Alive", Little, Brown and Company, 1982, 398p.
- Wegmann, Brenda and Knezevic, Miki P. "Interactions I, II", "Mosaic I, II", McGraw-Hill Publishing Company 2002, 399p.
- 阿部一, コミュニケーションの核となる基本英単語の意味とイメージ (Essential Vocabulary for Communication), 研究社出版, 1993, 438p
- 笠原禎一, 英語高速メソッド日常会話集 Vol.1, 2, 3, 新星出版, 2008, 209p.
- 高田誠, 成功へのみちしるべ 英語の学び方, 旺文社, 1993, 591p.
- 東後勝昭, 英会話 最後の挑戦 コミュニケーション・アプローチによる最新学習法, 講談社, 1989, 189p.
- ハ・ヒョンジュ (河 賢珠), 小学生のための英文法365日, 英単語365日, 英会話365日, すばる舎, 2006, 367p.
- ふかぎゑふ, リトル・チャロ, 日本放送出版協会, 2008, 191p
- 松本亨, 書く英語 基礎編, 実用編, 英友社, 2008, 425p.
- 安田正&ジャック・ニクリン, 英語のプレゼンテーション技術 (English Presentation Techniques), The Japan Times, 1993, 590p.
- Columbia University American Language Programs Bulletin2009-2010, 398p.
- DVD英語教材「リトル・チャロ ロスト・イン・ニューヨークVol.1」
- DVD英語教材「Japan Laim Original DVD Series EDUCATION 英語教育 Hot Issue!」 ジャパンライム株式会社, 2010
- Columbia University American Language Programs, <http://www.columbia.edu/alp>, (参照2010-1-16)
- NHK外国語講座 チャロ・オンライン, <http://www.nhk.or.jp/charo/>, (参照2010-1-16)